

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13001	男女共同参画の啓発推進		作成日	H26.4.1		更新日	H27.3.31
担当部署	160200	地域づくり推進部 男女共同参画室		責任者	藤田一郎太		担当者	藤田一郎太
取組年度	H23	～	H27					
効果	その他改善							
最終目標	男女共同参画推進のための啓発事業を市民と協働で実施する。平成17年から21年度までの啓発事業への若い世代の参加割合の平均は17.2%と低調であるが、高齢社会に対応した男女共同参画の推進には若い世代の参画が不可欠である。また、平成22年度の事業仕分けにおいて、若い世代や男性に向けた啓発に取り組むべきと指摘を受けた。今後、性別にとられない家事・子育て・介護などの家庭生活や社会活動への理解を深めるために、男性とこれからの社会を担う若い世代に広く啓発することで、ワーク・ライフ・バランスの推進を目指す。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度	進んでいる	講演会講師を子育て世代に依頼したり、分科会の内容も若い世代や男性が参加しやすいものを用意するなど、企画や啓発内容の工夫に努めた。						
平成24年度	計画どおり	子育てに関する講演会を保育付きで開催した。分科会に父親が中心となって活動している団体等が参画し、交流の場を持つことができた。						
平成25年度	遅れている	参加者自体は大幅に増加したが、若い世代の参加は前年度と比べ減ってしまった。						
平成26年度	実施	・男女共同参画を視点とした市民意識調査と若い世代や男性に向けた啓発事業の実施						
平成27年度	完了	・市民意識調査結果を踏まえた啓発事業の検討						
成果指標	指標名	啓発事業への若い世代の参加割合				単位	%	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	50.0	
	実績値	23.0	33.8	21.9	30.4			
効果額	歳入増加	計画額						0
		実績額						0
	歳出削減	計画額						0
		実績額						0
	計	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	今まで参加が少ない男性や若い世代に、直接、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画について、理解促進を図ることができる。							

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B			
番号・取組事業名	13001	男女共同参画の啓発推進	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31			
担当部署	160200	地域づくり推進部 男女共同参画室	責任者	藤田一郎太	担当者	藤田一郎太			
	区分	取組内容・目標							
平成26年度	実施	・男女共同参画を視点とした市民意識調査と若い世代や男性に向けた啓発事業の実施							
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
1	意識調査項目の検討			○					
2	意識調査の実施				○				
3	意識調査報告書の作成・公表					○			
4	内部でのシンポジウムの企画等の検討			○					
5	シンポジウム実行委員会立ち上げ			○					
6	実行委員会で企画内容の検討				○				
7	シンポジウムの広報・周知					○	○		
8	シンポジウムの開催, 来年度以降に向けた改善の検討						○		
9									
10									
進捗									
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	意識調査については、経年比較や国・県との比較のできる調査項目を決定し、調査を終えることができた。 シンポジウムについては、実行委員会とともに内容を検討し、今後周知等を行っていく。					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	啓発事業への若い世代の参加割合		計画値	単位	%	実績値	単位	%
					45.0		30.4		
	達成状況【成果】	未達成		コメント	平成25年度に比べ、若い世代の参加は大幅に増えた(21.9→30.4)ものの、計画値には及ばなかった。				
	進捗状況【活動】	遅れている							
計画変更(次年度以後)	取組内容	無		コメント	若い世代の啓発事業への参加が増えるように、講師や啓発事業の内容を工夫して行く。				
	計画値	無							
評価	評価者	石橋 良夫		※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	C		コメント 指示事項	若い世代の参加率が低くなっているが、その原因の分析と対応方策について、有識者の意見や先進事例などをもとに検討し、取り組みを強化していく必要がある。				
	方向性	取組み強化							

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13002	審議会等への女性の登用促進	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31		
担当部署	160200	地域づくり推進部 男女共同参画室	責任者	藤田一郎太	担当者	藤田一郎太		
取組年度	H23	～	H27					
効果	その他改善							
最終目標	審議会等の委員は男性が多い状況であるが、男女共同参画の視点から、政策・方針決定過程に男性と女性の双方が参画できるように審議会等で女性委員の割合が35%となることを目指す。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度	進んでいる	関係各課との連携により、平成23年10月1日現在で、計画値31%を達成した。						
平成24年度	計画どおり	関係各課との連携により、平成24年10月1日現在で、概ね計画どおりとなっている。						
平成25年度	計画どおり	関係各課との連携により、平成25年10月1日現在で、計画値を達成した。						
平成26年度	実施	関係課との連携による審議会等への女性の登用促進に対する各担当部署への働きかけ						
平成27年度	完了	関係課との連携による審議会等への女性の登用促進に対する各担当部署への働きかけ						
成果指標	指標名	審議会等における女性委員の割合				単位	%	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値	31.0	32.0	33.0	34.0	35.0	35.0	
	実績値	31.0	31.7	35.4	35.0			
効果額	歳入増加	計画額					0	
		実績額					0	
	歳出削減	計画額					0	
		実績額					0	
	計	計画額	0	0	0	0	0	
		実績額	0	0	0	0	0	
見込まれる その他効果 (金額以外)	政策・方針決定過程に男性と女性の双方がバランスよく参画することで、柏市の男女共同参画を推進する効果がある。		政策・方針決定過程に男性と女性の双方がバランスよく参画することで、柏市の男女共同参画を推進する効果がある。		政策・方針決定過程に男性と女性の双方がバランスよく参画することで、柏市の男女共同参画を推進する効果がある。		政策・方針決定過程に男性と女性の双方がバランスよく参画することで、柏市の男女共同参画を推進する効果がある。	

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B
番号・取組事業名	13002	審議会等への女性の登用促進	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31
担当部署	160200	地域づくり推進部 男女共同参画室	責任者	藤田一郎太	担当者	藤田一郎太
	区分	取組内容・目標				
平成26年度	実施	関係課との連携による審議会等への女性の登用促進に対する各担当部署への働きかけ				
取組項目			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	審議会等の登用状況の把握		○			
2	選任時期に向けた登用への理解促進				○	○
3	子育て世代の登用促進のため、会議時における保育提供の周知		○			○
4	会議における保育の提供		○	○	○	○
5						
6						
7						
8						
9						
10						
進捗						
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	審議会については、女性委員の年齢や職業について全庁的な調査を行った。 また、審議会の委員の募集の際には保育がつくことがわかりやすいように記載を心がけている。 審議会時の保育については、新たに中心市街地整備課で行ったほか、今後、企画調整課、下水道経営課で行う予定。		
進捗・実績						
年度末	成果指標名	審議会等における女性委員の割合	計画値	単位 34.0	%	実績値 35.0
	達成状況【成果】	達成	コメント	審議会の女性委員の割合は平均値では35%を達成したものの、個別に見ると未達成の審議会等も少なくなく、課題が残る結果となった。		
	進捗状況【活動】	その他				
	計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント	今後、各審議会委員の改選時期を念頭に入れ、より具体的に女性委員の登用について進めていく。	
計画値		無				
評価	評価者	石橋 良夫	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする			
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	目標値を達成しており、今後も継続していく必要がある。また、分野によっては未達成の審議会等もあり、その点で更なる取り組みが必要である。		
	方向性	継続実施				

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	A			
番号・取組事業名	13003	市民大学事業		作成日	H26.4.1		更新日	H27.3.31	
担当部署	160300	地域づくり推進部 協働推進課		責任者	石橋 良夫		担当者	鈴木 佑介	
取組年度	H23	～	H27						
効果	その他改善								
最終目標	<p>・市民との協働を推進するにあたり、人材発掘・人材育成を目的とした「市民大学事業」を実施する。          ・市民大学事業では柏の5～10年先を考え、行動する市民の活動の場づくり、まちづくりの担い手づくりを目的とする。</p>								
年度	区分	取組内容・目標							
平成23年度	計画どおり	10月に「柏市民ができる災害対策活動を考える」クラスを開講。							
平成24年度	計画どおり	9月に「柏市民ができる災害対策活動を考える」クラス修了。7月に「地活マイスター養成講座【基礎編】」、「柏市プロデュース大作戦」、「柏市のFacebookをつくろう！」の3クラスを開講し、3月に修了した。							
平成25年度	計画どおり	6月に「地活マイスター養成講座【実践編】」、「かしわっ子の未来と地域をつなげる！～レインボーブリッジ大作戦～」、「Food Stationかしわ～農×食でつながる社会～」の3クラスを開講し、3月に修了した。							
平成26年度	実施	・前年度までの実績をもとに事業の見直しを行いながら、市民大学の定着と促進を目指す。							
平成27年度	完了	・講座の継続。							
成果指標	指標名	地域活動等に参加する新たな人材の発掘				単位	人		
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値		
	計画値	30	50	70	90	100	100		
	実績値	17	74	117	150				
効果額	歳入増加	計画額					0		
		実績額					0		
	歳出削減	計画額					0		
		実績額					0		
	計	計画額	0	0	0	0	0	0	
		実績額	0	0	0	0	0	0	
見込まれる その他効果 (金額以外)	市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)	市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)	市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)	市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)	市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)	市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)	市民との協働の推進及び地域コミュニティの活性化(人づくり・まちづくり)		

H26

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	A			
番号・取組事業名	13003	市民大学事業	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31			
担当部署	160300	地域づくり推進部 協働推進課	責任者	石橋 良夫	担当者	鈴木 佑介			
	区分	取組内容・目標							
平成26年度	実施	前年度までの実績をもとに事業の見直しを行いながら、市民大学の定着と促進を目指す。							
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
1	市民大学の運営管理(推進委員会の開催, 進捗管理, 次年度クラスの決定等)			○	○		○		
2	平成26年度開講クラスの運営			○	○	○	○		
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
進捗									
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのクラスで、計画どおりカリキュラムを実施している。来年3月の成果報告に向けてコーディネーター及び担当課と連携協力している。</li> <li>運営管理も概ね計画どおり推進委員会を通じて各委員と意見交換を図り、次年度クラスの決定等を行っている。</li> </ul>					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	地域活動等に参加する新たな人材の発掘		計画値	単位	人	実績値	単位	人
					90			150	
	達成状況【成果】	達成		コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も2クラス実施した。1クラスは1年間で11名の卒業生を輩出している。もう1クラスは2年間で現在20名が在学中である。大学における学びを卒業後、地域で実践していくことを期待する</li> </ul>				
	進捗状況【活動】	進んでいる							
計画変更(次年度以後)	取組内容	無		コメント					
	計画値	無							
評価	評価者	関口 隆明		※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	B		コメント 指示事項	事業は円滑に実施された。5年目を迎え市民大学のあり方を再検討する時期である。				
	方向性	内容見直し							



## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	A		
番号・取組事業名	13004	地域づくり推進事業	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31		
担当部署	160400	地域づくり推進部 地域支援課	責任者	石橋 良夫	担当者	牧野共子		
	区分	取組内容・目標						
平成26年度	実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりや人づくりを進めていく。</li> <li>・地域活動, 市民活動等に新たに参加する人材を発掘する。</li> </ul>						
取組項目				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
1	各コミュニティエリアにおける地域課題解決型事業実施の支援			○	○	○	○	
2	地域活動支援補助金事業の充実			○	○	○	○	
3	地域づくり推進に係る意識啓発					○	○	
4	実施事業の分析, 先進事例情報収集・発信			○	○	○	○	
5	地域組織と行政の関係性の見直し			○	○	○		
6								
7								
8								
9								
10								
進捗								
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風早南部ふる協主催の園芸講座の修了生20名を, 花壇整備グループに組織。当課では協議会との連携等を継続支援。</li> <li>・豊四季台ぐるるセミナー(東京大学 高齢社会総合研究機構 主催)において一講座を担当, また, 昨年度の修了生による自主企画グループの活動支援とあわせ, いずれも受講者の自主的な活動への展開を促している。</li> <li>・地域組織と行政の関係性の見直しは懇談会組織の会議や一般参加のワークショップ等を重ね, 10月に提言をいただく予定。</li> </ul>				
進捗・実績								
年度末	成果指標名	地域活動等に参加する新たな人材の発掘	計画値	単位	人	実績値	単位	人
				50		47		
	達成状況【成果】	未達成	コメント	平成25年度末から事業推進・活動支援を進めてきた「風早南部ペレニアルガーデン講座」「豊四季台ぐるるセミナー」の受講者等が, 自主グループとして活動を始めることが出来た。				
	進捗状況【活動】	遅れている		他にも地域活動支援補助金関係事業や, 新たに地域活動に参加することを奨励するイベントは実行委員の公募を行ったが, いずれも成果をあげるには至っていない。「講座」という具体的な枠組みが人材発掘には有効と思われる。				
計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント					
	計画値	無						
評価	評価者	関口 隆明	※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	地域づくり事業は, 難しい面はあるが事業を実施しながら, 何がよいか模索し推進してもらいたい。				
	方向性	内容見直し						

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13005	ストップ温暖化サポーター事業等の推進	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31		
担当部署	080500	環境部 環境政策課	責任者	原田明廣	担当者	環境政策		
取組年度	H23	～	H27					
効果	歳出削減	その他改善						
最終目標	<p>温暖化防止対策を推進するため、市民が活動している「かしわ環境ステーション運営協議会」や「ストップ温暖化サポーター」が主体で行っている温暖化対策事業の拠点となる『地球温暖化防止活動センター』を設置するとともに、柏市の温暖化対策を集約したWEBサイトを構築し、市民の参画・参加を得ながら普及啓発を図る。</p> <p>センター立上時には、柏市環境保全協議会などの事業者会員加入により、市の委託料が削減できる 80会員×2千円＝160千円</p>							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度	計画どおり	「かしわ環境ステーション」や「SOS事業」で実施されている温暖化防止対策事業に加え、センター設置時に必要となる温暖化防止の専用WEBサイトを立ち上げた。						
平成24年度	計画どおり	温暖化防止活動団体の活動事業充実						
平成25年度	計画どおり	センターの開設と温暖化防止活動の推進						
平成26年度	実施	温暖化防止活動の推進						
平成27年度	完了	温暖化防止活動の推進						
成果指標	指標名	温暖化防止の普及啓発事業の回数				単位	事業数	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値	10	10	20	25	30	30	
	実績値	12	10	8	7			
効果額	歳入増加	計画額					0	
		実績額						0
	歳出削減	計画額	0	0	160	160	160	480
		実績額	0		160	140		300
	計	計画額	0	0	160	160	160	480
		実績額	0	0	160	140	0	300
見込まれる その他効果 (金額以外)	<p>柏市の温暖化活動及び各団体の活動状況の提供並びに市民が温暖化防止活動から情報提供を得る</p> <p>温暖化防止活動団体の充実を図る。</p> <p>カーボンオフセット制度の導入など新たな取組により、家庭等から排出される温室効果ガスの削減が見込まれる</p> <p>カーボンオフセット制度の導入など新たな取組により、家庭等から排出される温室効果ガスの削減が見込まれる</p> <p>カーボンオフセット制度の導入など新たな取組により、家庭等から排出される温室効果ガスの削減が見込まれる</p>							

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B			
番号・取組事業名	13005	ストップ温暖化サポーター事業等の推進	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31			
担当部署	080500	環境部 環境政策課	責任者	原田明廣	担当者	環境政策			
	区分	取組内容・目標							
平成26年度	実施	温暖化防止活動の推進							
取組項目				4~6月	7~9月	10~12月	1~3月		
1	かしわ環境ステーション各種環境学習講座の実施			○	○	○	○		
2	ストップ温暖化サポーター出前講座				○	○	○		
3	ストップ温暖化サポーター緑のカーテン普及啓発事業			○	○				
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
進捗									
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	かしわ環境ステーションによる環境学習講座については、順次実施。 ストップ温暖化サポーターによる出前講座については、増尾地区ふるさと協議会において実施(7/12)。 緑のカーテンに関しては、5月に育て方講習会(5/8, 9, 10), 7月に育て方相談会(7/24)を実施。					
進捗・実績									
年度末	成果指標名	温暖化防止の普及啓発事業の回数		計画値	単位	事業数	実績値	単位	事業数
					25			7	
	達成状況【成果】	<b>未達成</b>	コメント	かしわ環境ステーション事業では、事業内容はほぼ予定通り実施したが、今後は会員の獲得に向けた取組みも進めていく必要があると思われる。 ストップ温暖化サポーター事業については、出前講座の開催が1回に留まり、今後の活動方法に課題を残した。					
	進捗状況【活動】	<b>計画どおり</b>		緑のカーテンに関しては、5月に育て方講習会を行い、さらに初めての試みとして、講習会のフォローアップとして7月に育て方相談会を実施した。 8月の夏休みには親子を対象としたエコ・クッキング教室を開催した。 12月の地球温暖化対策月間には、ららぽーと柏の葉でかしわ環境フェスタ2014を開催した。					
計画変更(次年度以後)	取組内容	<b>無</b>	コメント						
	計画値	<b>無</b>							
評価	評価者	関 秀樹	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	<b>B</b>	コメント 指示事項	温暖対策の重要性が高まる一方で、基礎自治体でのその手法は、行政、事業者、市民のそれぞれの役割分担や協働のもとでないと遂行できない。その意味では、当該団体は柏市内で唯一の温暖化対策を目的とする市民団体であるので、今後も行政と連携を強化すべきと考える。特に、学校における環境教育などでの連携を模索すべき。					
	方向性	<b>取組み強化</b>							

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B			
番号・取組事業名	13006	柏市生きもの多様性プランの推進		作成日	H26.4.1		更新日	H27.3.31	
担当部署	080500	環境部 環境政策課		責任者	原田明廣		担当者	環境政策	
取組年度	H23	～	H27						
効果	その他改善								
最終目標	『柏市生きもの多様性プラン』に基づく、生物多様性の保全、再生を目指す。								
年度	区分	取組内容・目標							
平成23年度	進んでいる	生きもの多様性プランに沿った施策の実施							
平成24年度	計画どおり	生きもの多様性プランに沿った施策の実施							
平成25年度	計画どおり	生きもの多様性プランに沿った施策の実施							
平成26年度	実施	生きもの多様性プランに沿った施策の実施							
平成27年度	完了	生きもの多様性プランに沿った施策の実施							
成果指標	指標名	人里の生きものの種類・生き物多様性重要地区の保全状況				単位	種類数・状況		
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値		
	計画値	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種		
	実績値	動物153種 植物197種	動物153種 植物197種	動物153種 植物196種	動物153種 植物196種				
効果額	歳入増加	計画額	0	0	0	0	0	0	
		実績額							0
	歳出削減	計画額	0	0	0	0	0	0	0
		実績額							0
	計	計画額	0	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	生きもの多様性を保全できる環境を将来にわたって有することであり自然からの恵沢を将来に継承できる。								

H26

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13006	柏市生きもの多様性プランの推進	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31	
担当部署	080500	環境部 環境政策課	責任者	原田明廣	担当者	環境政策	
	区分	取組内容・目標					
平成26年度	実施	生きもの多様性プランに沿った施策の実施					
取組項目			4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
1	増尾の森管理, 観察会・自然調査の実施		○	○	○	○	
2	フットパスのルートの検討		○	○	○	○	
3	生きもの多様性重要地区の継続調査とカルテ作成		○	○	○	○	
4	柏の自然と生きものフェスタ, 講座の開催		○	○	○		
5							
6							
7							
8							
9							
10							
進捗							
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	増尾の森については, 観察会・自然調査とともに実施。フットパスのルートは, 関係課や関係団体とともに検討中。生きもの多様性重要地区の継続調査とカルテ作成は, 順調に進んでいる。生きものフェスタ, 講座についても順次開催し, 今後も計画通り実施する予定。			
進捗・実績							
年度末	成果指標名	人里の生きものの種類・生き物多様性重要地区の保全状況		計画値	単位 動物153種 植物196種	実績値	単位 動物153種 植物196種
	達成状況【成果】	達成	コメント	増尾の森に関しては, ホタル観察会・自然調査とも実施した。フットパスルートについては, 関係課や関係団体とともに検討中。来年度にはコースの確定及びマップの作成を予定。生きもの多様性重要地区のカルテ作成は36箇所中の30箇所を実施。生きものフェスタ, 講座についても計画通り実施した。			
	進捗状況【活動】	計画どおり					
	計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント			
計画値		無					
評価	評価者	関 秀樹	※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする				
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	市街化調整区域の谷津田など自然や生物の宝庫は, 決して手放しで保全は出来ない。今後, 地権者や農家の高齢化で荒廃地化する懸念があり, そうならないためには保全活動に参加する市民を増やしていく必要がある。			
	方向性	継続実施					

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13007	消防団運営事業		作成日	H26.4.1			
担当部署	400100	消防局総務課		責任者	村井 浩		担当者	消防団担当
取組年度	H23	～	H27					
効果	その他改善							
最終目標	「自らの地域は自ら守る」という郷土愛護の精神に基づき、市民の安心・安全を守るための組織の確立。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度	計画どおり	団員による新たなる担い手募集活動により、条例定数は確保が出来た。広報かしわ、消防局HPにより消防団への理解の促進が進み、救命サポート隊の活動による応急手当指導の普及促進が図られた。						
平成24年度	計画どおり	東日本大震災を教訓に消防団の必要性が再度見直されTVやラジオ消防局HPやポスターパンフレット等の活用また救命サポート隊の応急手当指導が増えたことにより住民へのPR活動ができた。						
平成25年度	計画どおり	女性消防団員14名の採用を決定した。訓練、行事等の消防団活動について消防局HP、ツイッター等を活用しPRを図り、救命サポート隊の積極的な応急手当指導の展開に努めた結果、応急手当の普及促進が図られた。						
平成26年度	実施	条例定数の確保、各種消防団活動の広報(PR)の充実、救命サポート隊による救命率の向上						
平成27年度	完了	条例定数の確保、各種消防団活動の広報(PR)の充実、救命サポート隊による救命率の向上						
成果指標	指標名	消防団員の定数確保				単位	人	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値	617	617	631	631	631	631	
	実績値	617	617	631	627		0	
効果額	歳入増加	計画額						0
		実績額						0
	歳出削減	計画額						0
		実績額						0
	計	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	消防団員数の確保による、災害に強いまちづくり・ひとづくりの向上		同左	女性消防団員の採用による災害等地域住民への対応の向上	女性消防団員を活用した活動による市民の安心安全の向上			

H26

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B			
番号・取組事業名	13007	消防団運営事業	作成日	H26.4.1		更新日	H27.3.31		
担当部署	400100	消防局総務課	責任者	村井 浩		担当者	消防団担当		
	区分	取組内容・目標							
平成26年度	実施	条例定数の確保, 各種消防団活動の広報(PR)の充実, 救命サポート隊による救命率の向上							
取組項目					4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
1	消防団と自主防災組織との協働化の推進				○	○	○	○	
2	消防団と事業所の協力体制の推進(消防団協力事業所表示証交付)				○	○			
3	消防団協力事業所表示証に関するPR(推薦及び募集)				○	○	○	○	
4	消防団活動の広報(PR)の充実(柏市消防団年間事業の情報提供)				○	○	○	○	
5	救命サポート隊による応急手当(普通救命講習含)の普及率向上				○	○	○	○	
6	女性消防団員による防火防災啓発活動等広報活動の充実				○	○	○	○	
7									
8									
9									
10									
進捗									
	上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	消防団の年間行事について, 開催等について, 消防局HP, 市広報紙等に掲載し消防団のPRを積極的に広報を行った。 救命サポート隊に女性消防団が加わり, 普通救命講習, 町自治会等において女性の特性を生かしたソフトな市民対応により, 受講者からの好評を得ている。				
進捗・実績									
		成果指標名	消防団員の定数確保	計画値	単位	人	実績値	単位	人
					631			627	
	年度末	達成状況【成果】	一部達成	コメント	消防団と自主防災組織等との協働化を推進していく。 消防団協力事業所表示証制度を推進し, 今後も積極的にPRを行っていく。 ホームページ等で消防団の事業を紹介するなど, 消防団活動の理解を促す情報発信を積極的に行い, より効果的なPRを展開していく。 救命サポート隊として女性消防団員を活用し, 応急手当の普及啓発活動を推進した。今後は, より一層の普通救命の向上を図っていく。 消防に関連するイベント等において, 女性消防団員を活用した, 効果的な防火, 救命等の啓発活動が行えた。今後も, 女性消防団員独自の特色ある事業を展開していく。				
		進捗状況【活動】	計画どおり						
		計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント				
		計画値	無						
評価	評価者	佐山 泰一	※重要度A事業は副市長, 重要度B事業は部局長を評価者とする						
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	・女性消防団による応急手当, AEDの普及啓発活動など, 特色ある事業展開を評価する。 ・地域防災の中核を担う消防団の活動環境を改善するとともに, 消防車両・無線機器等の消防団に必要な設備や活動拠点となる施設を整備し, 消防団の更なる充実・強化を図りたい。					
	方向性	継続実施							

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目		13 市民との協働の推進				重要度	B
番号・取組事業名	13009	市民との協働による講座の企画		作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31
担当部署	281100	生涯学習部中央公民館		責任者	海老原謙一	担当者	吉岡 裕子
取組年度	H24	～	H27				
効果	その他改善						
最終目標	<p>公民館には、個人の要望や社会の要請に応える（教育基本法第13条）ことができるよう、多種・多様な事業を展開することが求められているが、厳しい財政状況のなかで、新しい時代を切り拓く生涯学習を推進していくためには、少ない費用で質の高い事業を行う、いわゆるコストパフォーマンスを高めていくことが必要である。また、学習機会の提供事業（講座）には、市民が主体的に地域の課題の解決に取り組み、市民相互の仲間づくりや支えあう機運を醸成していくことが求められている。</p> <p>「市民との協働」は市政運営の主要な柱であるが、公民館事業はまさに協働事業としやすい分野であり、より効果的に実施できる分野である。このため、関係機関や団体との連携や参画機会を拡大し、市民が意欲的に取り組める学習環境の充実を図るとともに生涯学習事業をまちづくりにつなげていくことを目指す。</p>						
年度	区分	取組内容・目標					
平成23年度							
平成24年度	計画どおり	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図った。					
平成25年度	計画どおり	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図った。					
平成26年度	実施	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図る。					
平成27年度	完了	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図る。					
成果指標	指標名	連携事業実施回数				単位	回
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値
	計画値		3	3	3	3	3
	実績値		4	5	6		0
効果額	歳入増加	計画額					0
		実績額					0
	歳出削減	計画額					0
		実績額					0
	計	計画額	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)	市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。						
		市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。	市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。	市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。	市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。	市民団体等との調整や事業の見直しを通して、公民館の果たすべき機能を再確認及び重点化できる。	スピード・コスト・成果を重視する「行政改革」の目的意識を持って業務に取り組む職員の育成

H26

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13009	市民との協働による講座の企画	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31	
担当部署	281100	生涯学習部中央公民館	責任者	海老原謙一	担当者	吉岡 裕子	
	区分	取組内容・目標					
平成26年度	実施	協働、連携の情報収集を進めることにより、地域課題の精査を図る。					
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	連携・協働事業(講座や教室)の企画内容を検討			○		○	
2	連携・協働が可能な団体・組織との折衝と合意形成(企画内容や目的)			○		○	
3	実施に至るまでの役割分担を確認			○		○	
4	講師の依頼			○		○	
5	連携・協働事業の周知			○		○	
6	連携・協働事業の開催(事業のアンケート調査)				○		○
7	アンケートの分析				○		○
8							
9							
10							
進捗							
	上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	地域課題の精査・把握を行い、NPOや関係団体などと連携・協働して講座・講演会を実施。 上半期は、総合型地域スポーツクラブや柏市私立幼稚園協会と連携して老いと健康の講演会や家庭教育講演会を実施した。また、パソコンボランティアやガールスカウトの協力を得て親子で参加するクッキングやパソコン教室を実施した。下半期は、10月にわくわく人形劇祭りや1・2月に子育て支援講座を予定している。		
進捗・実績							
		成果指標名	連携事業実施回数	計画値	単位	回	実績値
					3		6
	年度末	達成状況【成果】	達成	コメント	家庭教育事業では柏市私立幼稚園協会と連携した「家庭教育講演会」の実施、柏市に拠点を置く子育て支援団体の柏市子どもの文化連絡会や子どもスペース柏と連携した「親子ふれあい広場」、「わくわく人形劇まつり」や「子育て支援講座」を実施、NPOなど各種団体との連携を進め実績を収めた。		
		進捗状況【活動】	進んでいる		地域づくり事業として、地域で活動する団体と連携した「老いと健康の講演会」を実施、市民団体やサークルから現代的課題をテーマに「市民自主企画講座」を公募し実施、地域で活動する団体への支援や連携を深めた。		
		計画変更(次年度以後)	取組内容	無	コメント		
		計画値	無				
	評価者	藤江 美紀雄	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする				
評価	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	公民館事業の実施にあたっては、市民との協働をテーマとして取り組んでおり成果を挙げている。また、公民館で活動しているパソコンボランティアが近隣センターの地域活動に貢献している例なども見られ、今後更に、地域の多様な団体と連携し事業を進めていきたい。			
	方向性	継続実施					

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13010	柏市猫の不妊去勢手術助成事業		作成日	H26.4.1		更新日	H27.3.31
担当部署	06170	保健所 動物愛護ふれあいセンター		責任者	石川 桂一		担当者	原田 友紀
取組年度	H24	～	H27					
効果	その他改善							
最終目標	市内で野良猫に関する苦情(近隣への糞尿等被害, 無責任な餌やりによる住民トラブル, 繁殖による猫の増加等)は後を絶たず, 保健所が受ける苦情の中で上位を占めている。また, 年間数百匹の野良猫の子猫が保健所に持ち込まれ, その多くが殺処分されている。それにも関わらず, 猫の場合は犬と異なり規制する法令等がないため, 餌やりの禁止や繁殖制限の手術等を強制することは出来ない。そこで, 野良猫を適正に管理する活動を行う団体(市が定める要件を満たす団体)に対し, 不妊去勢手術助成金を交付することにより, 望まれない命の誕生の阻止を図り, 猫に起因する問題を減らすことを最終目標とする。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度								
平成24年度		飼い猫及び地域猫(登録団体が管理する野良猫)に対する手術代の一部助成						
平成25年度	進んでいる	地域猫(登録団体が管理する野良猫)に対する手術代の一部助成						
平成26年度	実施	前年度同様, 手術代の一部助成						
平成27年度	完了	内容については未定						
成果指標	指標名	交付決定件数(匹数)				単位	件(匹数)	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値		120	150	180		0	
	実績値		197	201	174		0	
効果額	歳入増加	計画額						0
		実績額						0
	歳出削減	計画額						0
		実績額						0
	計	計画額	0	0	0	0	0	0
		実績額	0	0	0	0	0	0
見込まれる その他効果 (金額以外)		野良猫に関する苦情数の減少	繁殖制限による子猫引取り数の減少, 野良猫に関する苦情件数の減少	繁殖制限による子猫引取り数の減少, 野良猫に関する苦情件数の減少				

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B	
番号・取組事業名	13010	柏市猫の不妊去勢手術助成事業	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31	
担当部署	06170	保健所 動物愛護ふれあいセンター	責任者	石川 桂一	担当者	原田 友紀	
	区分	取組内容・目標					
平成26年度	実施	前年度同様、手術代の一部助成					
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
1	新たな活動団体、野良猫が問題となっている地域の発掘			○	○	○	○
2	既に登録されている団体への支援継続			○	○	○	○
3	「地域猫活動」の周知と啓発活動			○	○	○	○
4	今後どのような方法で事業を行うか、有効な手段の検討			○	○	○	○
5							
6							
7							
8							
9							
10							
進捗							
上半期	進捗状況	計画どおり	コメント	当初の予想よりも順調なペースで事業が進んでいる。その理由として、事業自体が市民に広く周知されるようになったことが考えられる。			
進捗・実績							
年度末	成果指標名	交付決定件数(匹数)	計画値	単位 件(匹数) 180	実績値	単位 件(匹数) 174	
	達成状況【成果】	未達成	コメント	今年度は、地域猫登録団体数がさらに6団体増えて計59団体となり、市内の幅広い地域から、様々な団体より申請がくるようになった。また、保健所における子猫の引取り匹数も、今年度は明らかな減少がみられる。このことは、本事業が本格的に始まって2年目となり、その効果が数字となって現れてきたものと考えられ、事業を継続する意義となる。			
	進捗状況【活動】	進んでいる					
	計画変更(次年度以後)	取組内容	有	コメント	今年度、実績値が計画値を下回ったのは手術単価の高い動物病院で不妊去勢手術を実施した団体からの申請が多かったためと考えられる。次年度については、これを考慮し、申請額の平均値をあげて計画値を設定する必要がある。		
計画値		有					
評価	評価者	山崎 彰美	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする				
	総合評価(A・B・C)	B	コメント 指示事項	本事業はさらに継続することで今後の効果が期待できる性質のものであるため計画値の変更はあるものの、引き続き同様に事業を進めていく。			
	方向性	継続実施					

H26

## アクションプラン全体計画（平成23～27年度）

推進項目	13 市民との協働の推進				重要度	B		
番号・取組事業名	13011	防犯灯のLED化推進事業	作成日	H26.4.1	更新日	H27.3.31		
担当部署	160400	地域づくり推進部地域支援課	責任者	松山 正史	担当者	地域支援担当		
取組年度	H26	～	H27					
効果	歳出削減	その他改善						
最終目標	町会等が設置・管理を行っている防犯灯を省電力、長寿命のLED灯に交換することにより、今後の防犯灯の維持管理補助金（電気料金相当）の削減、温室効果ガスの排出削減及び町会の経済的・人的の負担軽減を進める。平成30年度までに9割の防犯灯をLED灯とすることを目標とする。							
年度	区分	取組内容・目標						
平成23年度								
平成24年度								
平成25年度								
平成26年度	実施	LED灯具支給方式の導入により、交換コストの削減をはかり、普及を促進する						
平成27年度	完了	LED灯具支給方式の導入により、交換コストの削減をはかり、普及を促進する						
成果指標	指標名	LED防犯灯の普及率				単位	%	
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終値	
	計画値				30	45	45	
	実績値	3	8	17	37		0	
効果額	歳入増加	計画額					0	
		実績額					0	
	歳出削減	計画額				5,141	8,226	13,367
		実績額				5,372		5,372
	計	計画額	0	0	0	5,141	8,226	13,367
		実績額				5,372		5,372
見込まれる その他効果 (金額以外)					温室効果ガス 146tの削減  設置補助費 当初予算約 75,000千円	温室効果ガス 183tの削減		

## アクションプラン(平成26年度)

推進項目	13 市民との協働の推進			重要度	B			
番号・取組事業名	13011	防犯灯のLED化推進事業	作成日	H26.4.1		更新日	H27.3.31	
担当部署	160400	地域づくり推進部地域支援課	責任者	松山 正史		担当者	地域支援担当	
	区分	取組内容・目標						
平成26年度	実施	LED灯具支給方式の導入により、交換コストの削減をはかり、普及を促進する						
取組項目				4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
1	新制度(LED灯具支給方式)の創設			○				
2	LED灯具の一括購入			○				
3	町会等への周知			○	○			
4	補助事業の実施			○	○	○	○	
5								
6								
7								
8								
9								
10								
進捗								
上半期	進捗状況	進んでいる	コメント	新補助制度を希望した44団体に、合計2,359灯を交付決定した。1灯器具単価税込み価格が5,184円、1灯設置工事費平均額13,714円であることから、1灯当りの総額は18,898円であり、従来制度の補助上限額(30,000円)の3分の2の価格でLED化を行うことが出来る。今年度において、防犯灯のLEDへの改修の申請は打ち切っているため、来年も同様の制度を設け、LED防犯灯普及に努めていく。				
進捗・実績								
年度末	成果指標名	LED防犯灯の普及率	計画値	単位	%	実績値	単位	%
				30			37	
	達成状況【成果】	達成	コメント	平成26年度より、新たにLED防犯灯器具の現物支給補助を開始。その結果、1灯あたりのLED防犯灯設置単価を抑えることが出来たため、当初考えていた数値よりも多くLED防犯灯へ改修することが可能となった。				
	進捗状況【活動】	進んでいる						
計画変更(次年度以後)	取組内容	有	コメント	平成27年度において、LED化されていない防犯灯のリースによる全灯LED化を実施予定。				
	計画値	有						
評価	評価者	石橋 良夫	※重要度A事業は副市長、重要度B事業は部局長を評価者とする					
	総合評価(A・B・C)	A	コメント 指示事項	LED機器の一括購入によるコストの削減などに努め、予定以上の成果を挙げている。次年度は取り組みを強化し、普及のスピードを更に加速するため、リース方式による整備を予定している。				
	方向性	取組み強化						